

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームげんきの家
(ユニット名)	さくら
所在地 (県・市町村名)	熊本県菊池郡菊陽町辛川1923-1
記入者名 (管理者)	上田 美幸
記入日	平成 20年 1月 11日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	井口地区の生活の様子を知らないので地域生活を知ることが必要。そして地域で気持ちよく暮らせるように地域交流を図りたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	病院やホームの行事前は近所にチラシを回覧して頂きホームを知ってもらえようようにしたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	外来受付近くに掲示板を置き行事前には特に目立つように掲示し、近所の方も一緒に楽しめるようにする。又デイ利用者も一緒に楽しんでもらえるように声かけしていく。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		区長さんに年間行事予定を聞き参加できるところをホームの予定表に上げていく。区役なども参加していく予定である。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	利用者の支援で精一杯で、地域の高齢者の暮らしに役立つ話し合いまで取り組めていない。	○	長寿会の会合に参加して認知症についての話などリハビリや居宅の職員とチームを作り行ってみようと思っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人一人の意識改革を計り、質の向上を目指し自己評価を職員全員で書き込んでいる。各自の振り返りの機会としている。	○	年末にまとめて評価するのは大変だから、日頃から意識して改善できることを考え行った事はまとめておく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の生活状況を紹介したり家族の希望や意見を聞いて出来るだけサービスに盛り込むようにしているが、現状は決まった人の発言で意見が少ないように思う。	○	運営推進会議の報告書を職員が見る機会がなかったので、どんな話し合いが行われたのか分るようにしていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事故報告書を届け相談などしている。また、感染予防についての指導の連絡も役場の担当者からある。相談しやすいので助かっている。	○	町民の方にホームの事を知ってもらえるように働きかけていく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一部の職員は理解しているが全体に出来ていない。	○	資料を集めて勉強会を行う。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会に参加し虐待とはどういう事か理解している。	○	お知らせノートの1枚目に虐待になる行為を箇条書きにして貼り、いつでも意識下に置く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族から十分な話が聞けるように併設病院の相談員も一緒に関わり心配事がないように努めている。	○ 職員全員が利用者家族とホームがどのような契約を結んでいるかを知らなければいけない。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	機会を設けて意見はもらっていないが、利用者の顔色や様子を見て察知し意見や不満を聞くことはある。	○ ホーム会を行うように利用者会議を行い意見発表の機会を作る。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の状況変化、健康状態など急ぐ時に電話で報告したり来訪時に報告したりしている。金銭管理は毎月報告書を郵送している。職員の異動については聞かれた時に伝えている。	○ 職員の異動について報告できていなかったのでげんきの家だよりに載せていく。面会が少ない家族へはメッセージを加え生活の様子をお知らせする。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱等へ苦情があった時は職員全員の問題ととらえホーム会で考える機会を作っている。	○ 問題を発見した時は改善対策の取り組みを行う。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会で自由に意見や提案を聞く機会がある。個別面談も行っているが思いを伝えられない人もいる。	○ ホーム会で出た意見が反映されるように努めていく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	急な欠勤が出た時は連絡して出来る人を探して勤務してもらっている。行事の時は普段より多めの出勤で調整できている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者や家族に退職時の報告が出来ていなかった。昨年は職員の入れ替わりが多かったため家族に心配をかけたと思う。	○ 御家族はホームの様子を敏感に感じられると思うので、早目に安定した関わりが出来るように徹していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	熊本県認知症介護研修や看護協会等各研修へ参加している。	○ 復講を行う。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や定期的な会合へ参加している。	○ 復講を行う。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員旅行への参加により他の法人職員などの親睦を図っている。スポーツ大会及び歓迎会等を開催しストレス解消に努めている。	○ フィードバックをかける
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回勤務状況を評価し賞与及び昇給へ反映させている。事業計画の中で各自の目標も含めて実施できるように計画作成している。	○ 各自目標確認とフィードバック
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者との信頼関係を築くためにまずは笑顔で接し安心感を持ってもらえるようにしている。	○ 入居希望の方は入居前に何度か招きご家族と一緒に半日入居体験をすると入居時の不安が軽減できると思う。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	プライバシーが守れる状況で聞くようにしている。	○ 入居体験をすると全てが不安と感じていても、不安な事柄が幾つか見えてきやすく不安解消の近道になると思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	併設の相談員と対応しているので必要時は面談している。		個性に応じて合うサービス、(在宅、各種施設を選択してもらえる)情報提供を心がける。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の背景を知って言葉かけの工夫や支援のやり方を考えてやっている。心配事等は職員間で相談の上工夫しながら行っている。		利用体験をしてみてもと思う。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護だけでなく日々の生活の中で若い頃の話や懐かしい話、戦争時代の話聞くことで学んだり関係を築いている。入居当時は笑顔が無かった人が日々笑顔や言葉が多くなってきた。対応で変化が見られるのでこれからも温かく接したい。	○	一人一人の思いを知るために個別ケアをできるだけ多く、ふれあっていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	常に家族の方の意見や感想を聞き共に考えていけるように心がけている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日々の生活状況等、家族に詳しく報告し身近に感じてもらえるようにしている。	○	決まった人だけでなく職員皆が対応していけるように努めたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者と同じ気持ちで喜んで歓迎してあげられるオープンな雰囲気に努めている。	○	娘さんと葉書のやり取りをされている方のおられ、途切れないようにしていく。又、以前住んでいた場所や風景にふれられるようにドライブ等をしていきたいと思う。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	性格がどうしても合わず口論になりそうな時は職員が気づきそれとなく離したり、合うような時は自然と参加を促したり努力をしている。		トイレが解らない時はトイレの場所を、自室が解らない時は自室まで利用者同志で助け合える自信を持てるように働きかけていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	今後の利用場所の紹介等をし不安解消に努め途中見舞いなども行っている。		一度家族として過ごした人だから時々顔を見せてその人の記憶が遠くならないように努めたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の会話でちょっとした変化に気づくように心がけている。他に直接本人に確認する時もある。	○	受け持ち制にしているので関わりを深め本人の思いに近づけるよう努める。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	まるごとシートに情報を書き込むようにしている。	○	まるごとシートの活用を行い情報を今までよりも収集する。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	食事の摂取状況や排泄には特に気を使っている。元気がないときは昨日からの流れからどうしてかを考えるようにしている。又、スタッフ全員が受診介助を行いDrの説明を聞き薬のセットまでして把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員でまるごとシートに書き込み利用者の全体像を明確にし課題を見出しそれを元に計画を上げている。	○	実践可能なプランを作るようにする。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	やや遅れ気味だが介護計画の見直しの努力をしている。	○	定期的な見直しや変化に応じた見直しを行って行く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に残し職員全員情報を共有していると思う。介護計画の見直しにはまだつながっていない。	○	アセスメントして介護計画の見直しを行っていく。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショート利用が出来るように申請中。他科受診の介助や、処置方法を習い援助している。		デイケアも検討中。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア(舞踊、フラダンス、子ども会と一緒にクリスマス会など)への呼びかけをして楽しんでもらっている。	○	年間計画にボランティア訪問予定を立て地域の人や併設のデイ利用者も一緒に楽しめる場を作りたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	理容師さんに来てもらっている。パン屋さんも定期的に来られる。	○	社協支援のふれあいサロンがあり、それぞれの地元で行われているので馴染みの方々と会えるよう現在調整をしている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	知らない人も多いので資料などコピーをして知らせるように努めている。	○	社協の中に老人クラブ連合会やその他の関係団体があるので活動の相談をしていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の都合で受診介助できない等相談があるときは併設病院の受診介助は出来ることを伝えている。緊急時は救急車に同乗し付き添っている。家族へも連絡して駆けつけてもらっている。	○	専門医の受診が必要な方は職員も同行で家族と一緒に病状確認をして理解を得てもらう。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		<p>今後も変化がある時は看護職と連携をとり職員の判断や対処の力を育てていく。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		<p>不安を少なく安心して過ごせるように病棟ナースと連携をとる。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>今後は話し合いの場を作り方針を共有していきたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>今後の変化に備え、検討準備を行ってほしい。また、ターミナルケアを行っている他事業所との交流を図りたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	大きな声を出さず側に寄り添って話しかけたりカーテンや居室を利用してプライバシーの保護に努めているが一部できていない人もいる。個人資料は外部持ち出し禁止となっている。取り扱いには注意している。	○ 自覚できていない人もいるので本人が気づき改善できるようにお互い注意していく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用期間の長い人にはスタッフの情報交換などでほしい支援できていると思う。期間の短い人に対してはスタッフ不足が災いして働きかけが充分出来ていないと思う。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフ不足ですぐ対応できていないことがある。散歩や売店に行きたがるのを止めるときがある。朝起きが苦手な利用者に対して気持ちよく起きれる時間に合わせて朝食を出したり家の中の希望においては希望に添って支援している。	○ 一人一人の個性や希望を書き込んだ個人日課表を作りその人らしい暮らしに取り組みたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容の主張サービスもあるが行きつけの美容院へは家族にお願いしている。朝から更衣や髪を整えるなど行っている。時には顔のマッサージやネイルアートもしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理手伝いは一人一人出来るところをお願いしている。食材は隣のあんずへ利用者と一緒に買い物カゴを下げて取りに行っている。食事が終わると下膳できる人は流し台へ持っていく。	○ 以前よりレベルや身体の変化で出来ることが少なくなっているが生活を忘れないように支援している。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	以前はタバコを吸う人がおられたので場所を準備してストレスにならないように支援していた。今はコーヒー、お茶と頻繁に要求される人がおられるがその人専用のビンを用意している。	○ 梅酒やあんず酒を自家製で作っているのが皆で飲めるようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間を見ながら声かけをしている。排泄をしたことを忘れトイレ回数が多く人でもその都度付き添い安心してトイレに行けるようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎回声をかけ希望に添うようにしている。お湯は一人一人入れ替えている。湯加減も確認しながら行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室でゆっくり過ごしてもらったりリビングのソファを利用してそれぞれが体調に合わせて休息や一眠りできるように支援している。	○	日中ベッドで一眠りされたらそのまま何時間でも寝てしまいたい方々に、順番で人の前でもソファで足が伸ばせるようにリラックスタイムを作りたい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれのレベルに合わせた役割は持ってもらっている。生花や庭の水かけなど楽しめるよう花をたやさないようにしている。家族宛に絵手紙を書いてもらったり外出に誘ったりしている。	○	外での活動を増やして生きたい。少しでも外部の人たちと触れ合う機会を作りたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方は病院の売店や車内販売のパンを買われることもある。イベントの時はお金を持っていない方もおられるので金券を使って買い物してもらっている。		自分で買い込んだものを一度に食べ体調不良になられることもあったので検討していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候の良い日に少人数で外出を行っている。最近は寒くて少なくなっている。	○	買い物等連れて行くと喜ばれるのでもっと外出する機会を増やしたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族との外出は自由にされている。花見、ドライブ、食事など努力はしているがまだ少ない。	○	家族と共に日帰り旅行や外出の機会を取り組みたい。そして、参加家族が自然に利用者に支援できるようにして外泊の時の自信につなげてもらいたいと思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話番号を忘れたらその都度番号を知らせなるべく自分でしてもらおう。手紙の返事も手伝いながら出すようにしている。	○	自分の手で書ける間、2～3ヶ月に1度でも大切な方に現状報告やお礼などの手紙書きを支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気持ちよいあいさつを心がけている。お茶もリビングか自室か希望を聞いて出している。親しい方来られた時他の知人も誘って来てもらうように声をかけている。工夫はまだ不十分だと思う。	○	言葉使いあいさつなど気持ちよいと思われるように努力したい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設けてあり拘束をしないケアをしている。	○	禁止項目は再認識できるようにプリントを作り毎日見るようにする。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にはセンサーを使って音でわかるようにしている。一部の居室には事故防止のため家族の了解を得て補助キーをつけている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	姿が見えない時はどこにおられるか常に把握するように心がけている。夜間はセンサーマットを使いトイレに起きられたときはすぐ誘導できるようにしている。起き上がり介助の必要な方は鈴などで知らせてもらい対応するようにしている。	○	居室の掃除や整理又は、洗濯干しやガーデニングとリビングから離れる時は必ずスタッフ同志、声を掛け合いながら行動する。利用者のそばに誰かがいるように配慮していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	何でも口に入れてしまわれる方に対しては事務所に預ったりしている。その他ペット管理が難しい方や刃物などそれぞれの状態に合わせて危険防止に努めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ほとんどの所に手すりを付けている。誤薬防止に2人で確認をしている。喉に詰まったときの対応を時々習っている。防火訓練も定期に行っている。ひやりはつとの報告や検討をしている。	○	防火のためコンセンートの確認を行う。吸引器の取り扱いを定期に行う。ベランダに押し車で出られる時に出にくいので工夫したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルは作っているが訓練は行っていない。		勉強会を定期的に行う。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練は行っており利用者の対応やすみやかな連絡などマニュアルがあり事務所に張り出している。	○	もう一度見直し確認しておきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	身体状況を報告してリスクについて伝えている。定期的には行っていない。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	いつもと違う様子の時はバイタルを測ったり体調を確認した上で状況によっては受診したりしている。その時は申し送りをしてどのような対応をするのか対策を伝えるようにしている。	○	業務日報に一人一人の状態が見える書式に考え直す。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方文献を読むようにしている。薬の副作用など知識を共有できるようにしている。		間違いがないように各勤務で責任者を決めている。これからは、処方箋を見て学習していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	だいたい職員全員が理解し予防対策に努めている。水分摂取の声かけをしたり体操の時便秘解消運動を説明しながら行ったりトイレで排便促進マッサージをしたりしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケア誘導や介助をしている。場合によっては歯科受診を受けている。	○	毎週月、木曜に義歯をポリドント洗浄している。又、水曜には歯科のDrに見てもらっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事以外に10時と15時にお茶た牛乳など水分補給を行ない、飲みたい時に摂ってもらっている。食事品数も多くバランスに心がけている。個人の嫌いなものや禁止食品は台所に貼ってある。		台所の目につきやすいところに食品の働きとカロリーの目安表をはりたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防のため手洗い、うがいに努めている。利用者はもちろん職員全員予防注射を受けている。感染症対策のマニュアルがある。各所に手指消毒剤を置き使用している。	○	汚染した衣類は酸性水に浸け洗濯する。又、トイレの床も酸性水で拭いている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	地域の店舗より新鮮な食材を購入しており賞味期限には特に気をつけている。又、水曜は冷蔵庫内を酸性水で掃除している。		衛生管理に配慮し安全で新鮮なうちに食材を使い切るようにする。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周囲に花を植えたり一軒の家として訪問しやすい環境作り心がけている。玄関の段差や狭い所が心配なことである。	○	新しくテラスを作りスロープがついて車椅子の出入りがしやすくなった。玄関のインターホンが作動しにくいので考えていく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月に2回季節の花を届けてもらい利用者に生けてもらう。又ベランダ先の大きな木を切り見通しがよくなった。季節の移り変わりや鳥を見たり楽しまれている。ソファも変え安全に座れるようになった。	○	利用者はそれぞれ自室はあってもリビングが好きなようでそこで過ごす時間が多いのでそれぞれ楽しみを活かせる空間作りに努めたい
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事、お茶、作業以外はなるべくソファでゆっくり過ごせるように声かけをしている。暖かい日はバルコニーでお茶をしたりしている。テーブルは自分の席を決めなれたところで過ごされている。	○	ソファが足りないので普段座らない方にも空いている時は声をかけリラックスできるように努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御自分で描いた絵を飾ってある。好きな花や鉢物を置いたりされ、使い慣れた家具を持って来られている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の状況に応じてなるべく暖かい時間を選んで全体の空気の入替えをしたり途中換気扇をつけたり、加湿器をつけたりして空調配慮に努めている。	○	職員の体感温で調整するのではなく利用者の立場になって行う。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置とバリアフリーであるが必要に応じて手引き介助して安全に生活できるように配慮している。又、手すりを使って歌に合わせて足上げ運動が出来るように促している。	○	玄関の上がりかまちが段差があり危ない。対策を検討する。手すりを使った運動をもっと考え自発的に出来るようにしていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの表示や各部屋に表札を書いている。		分からない時の不安に早く気づけるように努め、自信を持って生活できるように働きかけていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テントの下に集まり話がはずむ。花を植えたり季節の野菜を植えたり楽しみがもてるようにしている。		庭にテーブルを置いてお茶を飲める場所を作る。

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ほとんどの入居者がのびのびと生活されている

入居者間の助け合いも出来ている。併設病院入院中、ほとんど会話がなかった人が入居後中心になってまとめ役になられ、自分らしい生活を送られている。

環境面では、狭い部屋を広く使いやすいように工夫したり、庭には四季折々花が咲くように手入れをしている。

職員全員、笑顔で接し安心感を持って頂ける様努め、事故が無い様安全面にも配慮している。